

川越市市内循環バス検討委員会における 方向性と検討課題（テーマ）

1 人口減少・高齢化社会への対応

川越市の人口は、平成30年にピークを迎え、それ以降は減少に転じると推計されています。また、65歳以上の高齢化率は年々上昇し、平成30年には26.1%、平成35年には27.3%と推計されています。

今後の川越シャトルについては、これらの人口減少・高齢化社会に対応しながら、市民や川越シャトル利用者のニーズを十分に把握し、利用しやすく質の高いサービスを提供することが必要となります。

したがって、以下の項目について、検討することとします。

- 利用者ニーズに合ったダイヤ等の見直し
- 運行本数の見直しや輸送力増加の方策

2 公共交通によるまちづくり

今後の人口減少に伴う公共交通利用者の減少、さらには、利用者が減少することに伴うサービス水準の低下が懸念されています。将来にわたり、持続可能な公共交通を実現していくためにも、市民が自動車利用からシフトして、公共交通を利用して移動することが重要となります。

また、本市では、例えば、平成30年春に新河岸駅が橋上化され、併せて駅前広場や東西自由通路が整備される予定であり、乗り継ぎ拠点としての機能が期待されています。

さらに、平成28年度中に、持続可能な多極ネットワーク型の都市構造の実現と交通環境の充実を図るため、川越市都市・地域総合交通戦略を策定する予定であることから、以下の項目について、検討することとします。

- 交通ネットワークの充実（乗り継ぎ拠点による利便性・効率性の向上）
- 川越市都市・地域総合交通戦略を見据えた路線の見直し

3 川越シャトルの収支バランス

近年、川越シャトルの赤字は徐々に改善されている状況ではありますが、今後車両更新に伴う新たな費用が見込まれているため、引き続き運行経費の削減に努める必要があります。

さらに、高齢化の進行に伴い、70歳以上及び80歳以上の特別乗車証による利用者の増加により、収支率の低下が見込まれます。この状態では、市民の移動手段として利用されている川越シャトルが維持できなくなる可能性があります。

市民で支える川越シャトルを維持・推進していくため、以下の項目について、検討していくこととします。

○運行経費の削減

○料金体系の見直し

4 市民や利用者に親しまれる川越シャトル

川越シャトルは、市民や利用者に親しまれ、利用しやすいバスとするため、事業を継続的に改善していく必要があります。

現在、市民、自治会や各種団体から、市に対して川越シャトルに関する多くの意見や要望をいただいているところですが、提出された主要な要望はその状況を確認し、以下の項目について、検討していくこととします。

○市民、自治会及び各種団体による主要な要望への対応